

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は103～104円台で一進一退の動きか

[1月11日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)	1月4日～1月8日				
始値 高値 安値 終値	前週比				
ドル・円	103.22	104.00(8)	102.59(6)	103.89	+0.69
ユーロ・ドル	1.2225	1.2349(6)	1.2221(4)	1.2265	+0.0050
=====					
国内株・金利/米国株・金利	終値 前週末比		終値 前週末比		
日経平均株価	28,139.03	+694.86	日本10年債利回り	0.035	+0.014
ダウ平均株価	31,041.13	+434.65	米10年債利回り	1.080	+0.166

<来週の主要経済統計等>

- 11日 豪11月小売売上高
中国12月消費者物価指数、中国12月生産者物価指数
- 12日 日本11月経常収支
- 13日 ユーロ圏11月鉱工業生産指数
米12月消費者物価指数
米12月財政収支
米地区連銀経済報告 (ページブック)
- 14日 日本11月機械受注高
中国12月貿易収支
米新規失業保険申請件数、米12月輸入価格指数
- 15日 英11月鉱工業生産指数、英11月製造業生産指数、英11月貿易収支
ユーロ圏11月貿易収支
米12月小売売上高、米12月生産者物価指数
米1月NY連銀製造業景気指数
米12月鉱工業生産・設備稼働率
米1月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】リスク選好のドル売りにより、ドルの上値の重い状況が続き、円も売られやすくなって、ドル円は方向感の出にくい展開が続くとみられる。ドル円は103～104円台での一進一退の動きを継続するとした。

【米ジョージア州の上院の決選投票は民主党が2議席とも勝利】

5日に米ジョージア州で上院2議席の決選投票が実施された。2議席とも民主党候補が勝利を収めた。この結果、上院は民主党と共和党がいずれも50議席ずつで並ぶこととなる。採決で賛否が同数となった場合には上院議長である副大統領が1票を投じるため、民主党が過半数を制することとなる。

下院は民主党が多数派となっており、大統領選と上下両院を制するいわゆる「トリプルブルー」となる。民主党主導による一段の経済政策への期待感は広がっている。こうした期待感を背景に6日のNYダウは437ドル高、7日には211ドル高となり、連日で最高値を更新した。7日にはNYダウ、ナスダック、S&P500の主要3指数が最高値を更新している。

追加の経済政策への期待感から、米国株は一段高となりそうだ。これまでは株高がリスク選好のドル売りに傾く要因となっていた。ただ、米国の財政赤字拡大への警戒感もあり、米10年債利回りは6日に1%を超える水準まで上昇、7日には1.07%台ま

でさらに上昇している。米長期金利の上昇はドル売りの動きを抑えて、ドルの買い戻しに転じる可能性がある。

ドル円はドル売りの動きを背景に5日に102円台半ばまで下落した。その後は米長期金利の上昇などによるドルの買い戻しの動きから104円近辺まで上昇している。ユーロドルは1.23台半ばまで上昇した後は下げに転じている。

6日に公表された昨年12月15～16日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨によると、量的緩和策を現状維持とすることで一致していたことが判明した。緩和策の長期化が改めて認識されて、ドル売りの動きにつながった。もともとジョージア州の上院選の決選投票のニュースの陰に隠れて影響は限定的だった。

新型コロナウイルスの感染拡大は続いている。世界の感染者数は8700万人を超え、死者数は190万人を超えている。米国の感染者数は2100万人を超え、死者数は36万人に達している。日本国内でも過去最多ペースでの感染拡大が継続しており、7日の夕方、菅首相が東京都など1都3県に緊急事態宣言を出した。事前に想定されていたことでもあり、市場の受け止め方は落ち着いている。ただ、今後の経済活動への悪影響が警戒される。

米国ではNYダウをはじめとして、株価の最高値更新が続いているものの、米国の財政赤字拡大への警戒感から、米長期金利はじり高で推移するものとみられる。これまでドル売りの動きが反転する可能性も出てきている。ドルインデックスは12月21日の高値91.018から1月6日に89.209近辺まで下落した。その後は89.90台まで上昇している。

ドル売りの巻き戻しの動きが今後しばらく継続するかは不透明ながら、米長期金利の上昇傾向を受けて、ドル売りの流れは鈍化する可能性が高い。その場合はドル円の下支え要因になるとみられる。ドル円は103円割れではサポートされやすいが、104円を超えて大きく上昇するような強さはなく、103～104円台を中心に一進一退の動きになるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、102.75～105.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、12日に日本11月経常収支、13日に米12月消費者物価指数、米12月財政収支、米地区連銀経済報告（ページブック）、14日に日本11月機械受注高、米新規失業保険申請件数、米12月輸入価格指数、15日にユーロ圏11月貿易収支、米12月小売売上高、米12月生産者物価指数、米11月NY連銀製造業景気指数、米12月鉱工業生産・設備稼働率、米11月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは上値の重い展開か】

ユーロドルはドル売りの流れを受けて、6日に1.23台半ばで上昇した。その後は米長期金利の上昇などもあり、ドルが買い戻される展開となって、1.23ドルを割り込み、1.22台半ばまで下落している。ユーロドルは上値追いが続いてきたこともあり、調整が入りやすくなっていた面もある。

11日の週は目立ったイベントなどはない。米株高によるリスク選好のドル売りの動きも限定的になるとみられ、ユーロドルは上値の重い展開に転じることとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.2100～1.2350ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、11日に豪11月小売売上高、中国12月消費者物価指数、中国12月生産者物価指数、13日にユーロ圏11月鉱工業生産指数、14日に中国12月貿易収支、15日に英11月鉱工業生産指数、英11月製造業生産指数、英11月貿易収支、ユーロ圏11月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。